

基本計画の検討

【第1～2回検討会】 建設予定地の検討

【第3～4回検討会】 配置の検討（平面・立体）／想定される「活動」の検討

機能・規模の検討



- 令和6年度の議論内容を基に「イメージ模型」を作成
 - 市民文化会館1階にエントランスホールに展示するとともに、アンケート調査を実施
 - 市民説明・意見交換会を計3回開催
 - JR旭川駅や商業施設など外部でのPRと意向調査を実施
- 様々な活動での利用希望とあわせて、管理運営面に関する多数の意見をいただきました。



第6～7回検討会

市民説明・意見交換会やイメージ模型の展示会場（市民文化会館1階エントランスホール）とweb上で行ったアンケート調査から得られた意見を基に議論しました。

引き続き幅広く市民意見を聴取するとともに意見に示された管理運営面についても検討することとし、丁寧な議論を行うために、検討期間を1年間延長することとしました。



第8～10回検討会

これまで収集した市民意見に示された希望を基に、新文化ホールが担うべき事業について議論しました。

議論を通して事業（ソフト）の面から想定される機能や規模（ハード）面の考え方の基礎となる「事業の方向性」と、管理運営面の考え方の基礎となる「管理運営の方向性」について定め、令和8年度は詳細な機能・規模について議論することとしました。



整備事業の方向性

- 多くの市民が鑑賞を通して感動や興奮を得、文化の醸成やまちの活性化に寄与する
- 市民の活動を応援し、成長の場を提供する
- 幅広い属性の人が訪れ、交流を通してまちと文化を活性化させる
- 新たな世代、施設を利用したことがない人が施設を訪れるきっかけをつくる

管理運営の方向性

- 道北の文化芸術の拠点として、市民や興行主等が自ら催しを開催したくなる仕組みづくり
- 時代のニーズに柔軟かつ速やかに対応可能な管理運営体制の構築
- サービスの質の向上と適切な採算管理の両立による持続可能な施設運営

令和8年度の検討へ